

背景

インターネットの普及により、多くのコミュニティがWWW上にサイトを持ち、議論や情報交換を活発におこなっている。しかしながら、コミュニティの参加者の視点を中心に見ると、コミュニティの参加者にとってコミュニティサイトは、広大なウェブ空間上の極一部に過ぎない存在である。コミュニティ参加者が新たな知識を獲得する際に重要となる〈コミュニティ外に存在する情報〉を〈コミュニティのために生かすための作業〉への支援としては、既存のコミュニティ支援サイトは〈内向き〉であることが多く、十分なものとなっているとは言い難い。

本テーマでは、コミュニティにおける個人の情報収集・情報の理解を支援することによってコミュニティ内の情報流通を円滑化するシステムの開発をおこなった。本テーマで開発したシステムは、特にコミュニティ内に蓄積されたグロッサリに基づいて情報の分別・理解・流通を支援するものである。

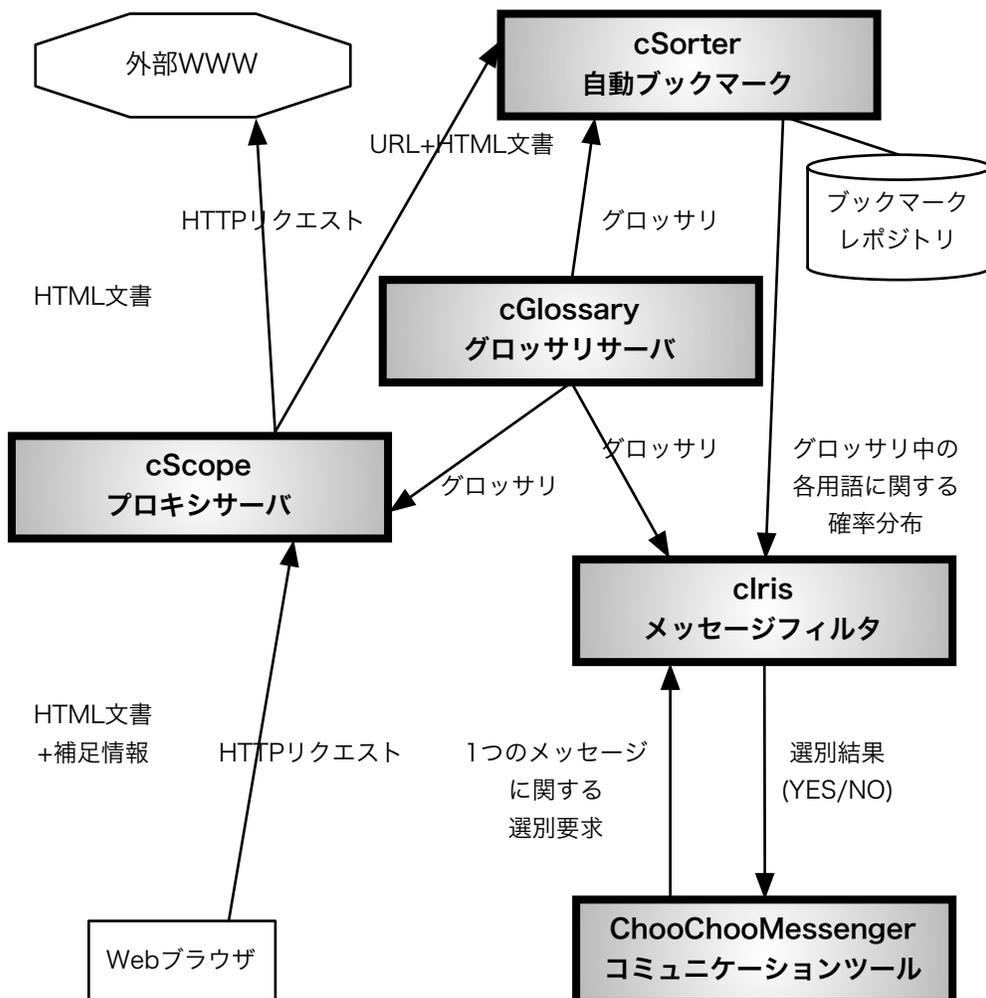
目的

コミュニティにはそれぞれ独自の用語や意味付けがあることが多く、例えばFAQ等ではまず用語の解説から始まることが少なくない。すなわち、グロッサリは各コミュニティの共通理解事項であると同時にそのコミュニティ全体が持つ〈視点〉の基底であると考えられる。一方、コミュニティを構成する各個人にはそれぞれの興味・専門分野・知識・経験があり、その差異を有効に利用することがコミュニティ全体の有効性や成長の重要な鍵である。また、コミュニティが持つグロッサリは、各個人がそのコミュニティに関連した情報を理解する際にも有効な情報源である。

本テーマで開発したシステムでは、コミュニティが持つグロッサリを元に、各個人毎に提供されるHTTPプロキシサーバを使って各個人の情報の収集／情報の分類／情報の交換といった活動を支援する。

開発の内容

本テーマでは、コミュニティが持つ知識の基盤としてグロッサリに注目し、それに基づいてコミュニティが持つ知識をコミュニティ外の情報に適用するための支援システムを開発した。本コミュニティ支援システムは、1) コミュニティの知識としてのグロッサリを複数扱い管理するためのグロッサリサーバおよびグロッサリのためのインターフェースモジュール、2) 任意のURLで提供されるHTML文書に対してコミュニティの知識を埋め込む個人用プロキシサーバ、3) プロキシサーバがアクセスしたURLを自動的に記録し、そのコンテンツ内で用いられたグロッサリ中の用語に基づいて自動分類をおこなうブックマーク管理システム、4) プロキシサーバおよびブックマーク管理システムによって得られたユーザモデルに基づいて、コミュニティ内に流通する情報を自動的に取捨選択するフィルタ、5) そのフィルタに対応したコミュニティ内コミュニケーションツール、という五つのサブシステムから構成される。



従来の技術との相違

本テーマは、基礎にしているコンセプトが通常のコミュニティ支援システムとは異なり、ユーザが日頃おこなっている活動に、ユーザ自身の興味に基づき複数のコミュニティの視点を導入するという点が、非常に独創的なものとなっている。

cScopeでは、ウェブページのオリジナルの状態をなるべく変化させない範囲で、キーワードをハイライト表示しアイコン表示とハイパーリンクとを加えることによって、ユーザ自身のtasks at handを疎外することなく、ユーザ自身のウェブブラウジング行為を強化する。

また、ウェブブラウジングにおけるブックマーク管理は通常は階層構造の情報空間として表現され、ユーザはその管理にある程度の労力を割かざるをえなくなっているのが現状であるが、cSorterの機構により、その労力が減らされるとともに、自らの閲覧したウェブページ群を自ら作成したブックマークリストと関連づけられた情報空間としてとらえることが可能となる。

期待される効果

本システムcSuiteは、一般的なユーザが利用可能なソフトウェアであると同時に、直接的にはその効果をはかりがたいソフトウェアであると思われる。このような特徴を鑑みれば、本システムcSuiteを利用したビジネスを一般ユーザ向けに即座に立ち上げるといったことは困難である。

むしろ、Semantic Webに代表されるウェブ上の新たな研究成果や技術との統合や連携を深めることによって、次世代のウェブ世界を向上させるような今後の発展を望むことができるのではないかと考えている。

活用の見通し

現在、本システムは、<http://63-253-64-77.ip.mcleodusa.net/cSuite/> において公開中であるが、今後は、システムの機能性向上のためのフィードバックを手にするためにも一般ユーザに対してシステムの利用を促すことが必要である。

アプリケーションシステムとしてのインストール方法の簡便化や利用マニュアルの充実といったことは、開発期間中から課題として捉えてきており対処はしているものの、一般的なパッケージアプリケーションソフトウェアと比較すると多少困難であることは否定できない。開発期間内では、これらはシステム開発の最重要の開発対象とはしていなかったが、今後はシステム全体のブラッシュアップと同等の重要性を持つものとして扱い、両者を並行しておこなっていきたいと考えている。

具体的な活用の場面としては、一般生活者としてのユーザあるいはグループというよりも、むしろ、企業や大学といった組織においてCommunity of Practiceとなっているようなグループ、あるいはそれを目指すグループ、グループのアイデンティティを築こうとしている集団、といったある程度のつながりを既に有した数人～数十人の人々間での利用を想定している。

開発者

開発代表者： 小田 朋宏

共同開発者： 山本 恭裕

共同開発者： 青木 淳

担当PM： 石田 亨

プロジェクト管理組織： (株) SRA先端技術研究所